

大月阿波踊り

フェスティバル開催

ACTIVE KUMIAI



ステージの最後を飾る総踊りの様子

山梨県内では、平成25年1月12日(土)から11月10日(日)までの303日間にわたり、「第28回国民文化祭・やまなし2013」(愛称「富士の国やまなし国文祭」)が開催されており、大月市と大月商店街協同組合は、6月23日(日)に大月市民会館大ホールにおいて、阿波踊りフェスティバルを開催した。

国民文化祭(こくみんぶんかさい)とは、全国から集結し、演劇、吹奏楽、美術作品などを発表する文化の祭典であり、「文化の国体」といわれている。1986年に東京で第1回大会が行われて以降、毎年各県持ち回りで1週間程度の期間で開催されているが、今回は異例の長期にわたる開催となっている。

大月阿波踊りは、かつての夏の風物詩と言われた七夕祭りに変わる催しを求めて、昭和59年、市政30周年記念ともあわせ、岩殿山かがり火祭りの協賛事業として、大月商店街協同組合の共同駐車場で開催されたのが第1回である。

今年、市政60周年、大月阿波踊り第30回の記念の年にあたり、「阿波踊りフェスティバル」街が鳴る心踊る」の第1弾のステージイベントとして、市内より6団体、山梨市より1団体、関東近県より4団体の他、本場の徳島から「藍吹雪」が参加し、熱いパフォーマンスを繰り広げ、会場を盛り上げた。

展示室では、「大月阿波踊り30年のあゆみ展」が開かれたほか、ロビーでは、市内の大月織物(協)のネクタイ、ストール、野草のさと・大月加工センター(企)のウコン・ヤーコンなどの製品、商店街の飲食店の各種弁当などの販売も併せて行われた。

第2弾はストリートバージョンで、8月3日(土)に「第30回かがり火市民祭り」にあわせ、国道20号線大月駅付近において路上を練り歩くストリートパフォーマンスが予定されている。



物販コーナーの賑わい